

『宇宙船イン・ビトゥイーン号の窓』 2025年国内ツアー



画像一式：<https://x.gd/g6GOM>

【熊本公演】2025年8月2日(土)～3日(日) 熊本県立劇場 演劇ホール舞台上

【三重公演】2025年8月9日(土)～10日(日) 三重県文化会館 小ホール

【豊岡公演（豊岡演劇祭2025）】2025年9月22日(月)～9月23日(火祝) 芸術文化観光専門職大学 静思堂シアター

発音や文法といった「正しさ」ではない、演劇における日本語の可能性をひらくため、チェルフィッチュは2021年より「ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト」として日本語を母語としない方を対象としたワークショップを実施。出会った俳優とともに、演劇作品『宇宙船イン・ビトゥイーン号の窓』を創作しました。

2023年の東京初演、京都公演（KYOTO EXPERIMENT）以降、烏鎮（中国）、2024年にブリュッセル（ベルギー）、ソウル（韓国）、パリ（フランス）での上演を重ねてきました。

2025年は、「ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト」のコンセプトをより多くの観客と共有することを目指し、熊本・三重・豊岡の国内ツアーを実施。全都市チェルフィッチュにとって初めての会場となります。一部会場では関連トーク・ワークショップも実施を予定。乞うご期待！

詳細：<https://chelfitsch.net/activity/2025/03/inbetween.html>

お問い合わせ

株式会社precog(プリコグ) 担当：水野恵美、遠藤七海、千田ひなた

MAIL：chelfitschticket@gmail.com TEL：03-3528-9713(平日10:00～17:00)

企画概要

あらすじ

とある言語の衰退を食い止めるべく、宇宙船イン・ビトゥーン号に乗り込んだ四人の乗組員と、一体のアンドロイド、そして銀河の旅の途中で遭遇する地球外知的生命体。

宇宙を漂いながら、やがて言葉をめぐる対話が繰り広げられる。劇中で語られる、変化しゆく「わたしたちの言葉」とは、いったい誰のものなのか。

アーティストコメント

『宇宙船イン・ビトゥーン号の窓』は、日本語を母語としない俳優たちによって日本語で演じられるSF演劇です。演劇において俳優がある言語を、たとえば日本語を話している。それが意味していること、生み出しているものはなにか？ それを仔細に検討してみようとする、あまりにも複雑で、あたかもそれはマルチヴァースのようです。重大なミッションを果たすべく四人の乗組員と一体のアンドロイドを載せて宇宙を漂泊するイン・ビトゥーン号の顛末を描くこの演劇を体験する時間があなたにとって、言語とは、日本語とは、という問いに不思議な仕方でおもしろさをめぐる時間となったら嬉しいです。劇場でお待ちしております。「日本語を母語としない俳優が日本語で演じる演劇」と聞いておそらくイメージするだろうとおぼしきそれとはおよそ異なる演劇体験をしていただけるとおもいます。

岡田利規

上演歴

- | | | | |
|-------------------|--------------------------------------|------------------|---|
| ・2023年8月4日～7日 | 吉祥寺シアター（東京） | ・2024年5月18日～20日 | KVS BoI（ブリュッセル／ベルギー） |
| ・2023年9月30日～10月3日 | ロームシアター京都
〈KYOTO EXPERIMENT 2023〉 | ・2024年5月25日 | 〈クンステン・フェスティバル・デザール〉
国立現代美術館ソウル館（韓国） |
| ・2023年10月27日・28日 | 网劇場(N THEATRE)（中国）
〈烏鎮演劇祭2023〉 | ・2024年10月26日～30日 | パリ日本文化会館（フランス）
〈フェスティバル・ドートンヌ・パリ〉 |

●ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト

演劇は、俳優の属性と役柄が一致せずとも成立するものです。それにも関わらず、日本語が母語ではない俳優はその発音や文法が「正しくない」という理由で、本人の演劇的な能力とは異なる部分で評価をされがちである、という現状があります。

ドイツの劇場の創作現場で、非ネイティブの俳優が言語の流暢さではなく本質的な演技力に対して評価されるのを目の当たりにした岡田は、一般的に正しいとされる日本語が優位にある日本語演劇のありようを疑い、演劇における日本語の可能性を開くべく、日本語を母語としない俳優との協働を構想しました。

今後も活動を継続し、このような取り組みが他の作り手にも広がることで、日本語が母語ではない俳優たちの活動機会が増え、創作の場がより開かれた豊かなものになることを目指します。

プロジェクトについて：<https://chelfitsch.net/works/inbetween/>

・ワークショップレポート

新しい演劇の形を目撃した！「日本語を使った演劇ワークショップ」レポート
<https://note.com/precog/n/n54be1d88d66a> (precog note)

・初演時レポート

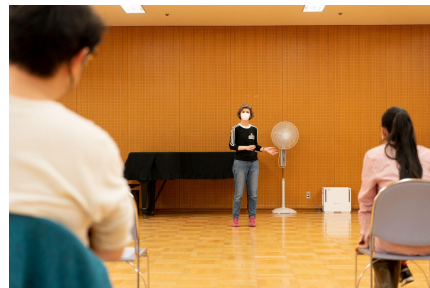
ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト特集
https://note.com/chelfitsch_note/m/mebe378733eca (chelfitsch note)

・トークイベント（アーカイブ映像）

チェルフィッチュによるノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクトについて考える

アーカイブ(YouTube)：<https://youtu.be/53gEzFUim5c>

ワークショップ／オーディションの様子



撮影：加藤甫



撮影：加藤甫



プロフィール

岡田利規 / Toshiki Okada(演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰)



撮影：宇壽山喜久子

演劇作家、小説家、演劇カンパニー「チェルフィッチュ」主宰。

その手法における言葉と身体の特徴的な関係が注目される。2007年『三月の5日間』でブリュッセルの国際舞台芸術祭、クンステン・フェスティバル・デザールに参加。この初の海外公演以降、国内のみならず、アジア・欧州・北米・南米あわせて90都市以上で作品を上演し続けている。

2016年からはドイツの公立劇場レパートリー作品の作・演出も継続的に務める。2020年『掃除機』（ミュンヘン・カンマーシュピーレ）および2022年『ドーナ(ッ)ツ』（ハンプルク、タリア劇場）でベルリン演劇祭（ドイツ語圏演劇の年間における“注目すべき10作”）に選出。

タイの現代小説をタイの俳優たちと舞台化した『プラータナー：憑依のポートレート』で第27回読売演劇大賞・選考委員特別賞を受賞。能のナラティヴの構造を用いた『未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀』（KAAT神奈川芸術劇場）で第72回読売文学賞・戯曲・シナリオ賞及び第25回鶴屋南北賞受賞。2021年には『夕鶴』（全国共同制作オペラ）で歌劇の演出を手がけた。

小説家としては、2007年に『わたしたちに許された特別な時間の終わり』（新潮社）を刊行。第2回大江健三郎賞受賞。2022年に『ブロッコリー・レボリューション』（新潮社）で第35回三島由紀夫賞および第64回熊日文学賞を受賞。

チェルフィッチュ

チェルフィッチュ / chelfitsch

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。独特な言葉と身体の関係性を用いた手法が評価され、現代を代表する演劇カンパニーとして国内外で高い注目を集める。その日常的所作を誇張しているような/していないようなのだららとしてノイジーな身体性は時にダンス的とも評価された。07年ヨーロッパ・パフォーミングアーツ界の最重要フェスティバルと称されるクンステン・フェスティバル・デザール2007（ブリュッセル/ベルギー）にて『三月の5日間』が初めての国外進出を果たして以降、アジア、欧州、北米にわたる90都市以上で上演。11年には『ホットベーパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』が、モントリオール（カナダ）の演劇批評家協会の批評家賞を受賞。近年は、世界有数のフェスティバル・劇場との国際共同制作により、『現在地』（12年）、『地面と床』（13年）、『スーパープレミアムソフトWバニラリッチ』（14年）、『部屋に流れる時間の旅』（16年）『三月の5日間』リクリエーション（17年）を発表。つねに言葉と身体の関係性を軸に方法論を更新し続け、既存の演劇手法に捉われない表現を探索しており、18年には映像によって演劇的空間を立ち上げる展示/上演『渚・臉・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉』（熊本市現代美術館）を制作・発表。19年から20年にかけては美術家・金氏徹平をセノグラフィーに迎え、『消しゴム山』（KYOTO EXPERIMENT 2019）と『消しゴム森』（金沢21世紀美術館）を制作。引き続き「映像演劇」の手法を用い、ひとつのコンセプトをふたつの異なる空間で発表している。

出演者プロフィール



安藤真理 / Mari Ando

2006年伊丹アイホールにて岡田利規ワークショップ&パフォーマンス「奇妙さ」に参加。以降2008年『フリータイム』、2009年『記憶の部屋について』（金沢21世紀美術館「愛についての100の物語」）、『ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』、2011年『家電のように解りあえない』、2016年『部屋に流れる時間の旅』他に出演。



撮影：Fanni Tsukahara

ティナ・ロズネル / Tina Rosner

ハンガリー出身の現代日本舞台芸術研究者。2014年から東京在住。

2011年に博士課程を取得。2005—2018：ベーチ大学で演劇学の上級講師、2017年からは東京の明治大学国際日本学部で講師を務める。

研究・教育の傍ら、俳優、演出家、Tokyo Acting Classの創設者としても活動。

特別研究員：UNESCO-Aschberg奨学金（2006）、国際交流基金博士研究員（法政大学2014）、日本学術振興会（早稲田大学2015-2017）

ホームページ：www.tinarosner.com



撮影：Marie Hasegawa

ロバート・ツェツシェ / Robert Zetzsche

1986年生まれ、東ドイツ出身。2005年より執筆者として活躍。2007年ドイツの州立劇場で裏方として1年間働く。2010年より翻訳者として働き始める。2012年来日し、2013年より和・英・独の翻訳を開始。東京都現代美術館、広島県立美術館、ヴェネツィア・ビエンナーレ2019日本館展示

「Cosmo-Eggs」、国際芸術祭「あいち2022」、KYOTOGRAPHIE 2025等、主にアート・写真関係の翻訳を行う。



撮影：久保田碧音

徐秋成 / Qiucheng Xu

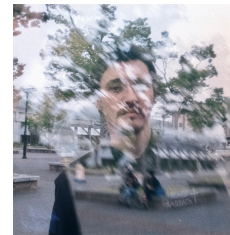
1993年中国河南省生まれ。多摩美術大学メディア芸術コースを卒業、東京藝術大学大学院先端芸術表現科を修了。主にゲームエンジンを使って映像やゲームを制作。死後の世界や夢、記憶、ポストメモリーをゲームと演劇の手法で表現する。受賞：2023アジアデジタルアート大賞FUKUOKA動画部門大賞、文部科学大臣賞、2023年東京藝大アートフェス佳作など。展示：2023年日暮里脱衣所、渋谷Parco GalleryX、2024年福岡市美術館など。



撮影：Ralph Lumbres

ネス・ロケ / Nes Roque

1991年フィリピン、アンヘレス市生まれ。女優・劇作家。演劇、現代のパフォーマンス、教育における学際的、フェミニスト、脱植民地的実践の探求を行う。文部科学省の奨学金を受け、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科にて研究を追求。アジア太平洋地域の様々なプロジェクトで参加型アートやリサーチの実践、コミュニティの運営、教育を統合するかたちで活動する複合領域的な集団 Salikhain Kolektib の一員として活動。www.nessroque.com



米川幸リオン / Yonekawa Koh Leon

1993年生まれ。三重県鈴鹿市出身、京都市在住。京都造形芸術大学映画学科俳優コースと映画美学校アクターズコースを卒業。チェルフィッチュ／岡田利規の作品には『三月の5日間』リクリエーション、『消しゴム山』／『消しゴム森』、市民と創造する演劇『階層』、『宇宙船イン・ビトゥイン号の窓』に出演で参加。また俳優として活動しながら、主には映画において自身での創作も行っている。近作に『あっちこっち、そっちどっち』、『（あるいは）限界 ニュータウン』、『つちのちのちうち』、ホンダチヒロとの共作『“Time, River, Bridge”と5つのテキスト』など。

公演概要

宇宙船イン・ビトゥイン号の窓

詳細：<https://chelfitsch.net/activity/2025/03/inbetween.html>

【熊本公演】

日程：8月2日(土)18:00

8月3日(日)14:00

※開場は各公演30分前 ※各回アフタートーク付

※未就学児入場不可(有料託児サービスあり：要事前申込)

会場：熊本県立劇場 演劇ホール舞台上

〒862-0971 熊本県熊本市中央区大江2丁目7番1号

チケット＜5月5日(月・祝)9:00発売＞

料金(全席自由)：一般 4,000円(障がい者等割・U25割半額)

お取り扱い：熊本県立劇場 096-363-2233(9時～19時/休館日を除く)

熊本県立劇場チケットサイト <https://p-ticket.jp/kengeki>

チケットぴあ(Pコード：534-011)

ローソンチケット(Lコード：83766)

お問い合わせ：熊本県立劇場 TEL：096-363-2233(代表) WEB：<https://www.kengeki.or.jp/audienceperform/2025-inbetween>

※7月5日(土)岡田利規ワークショップ開催決定

詳細は後日、熊本県立劇場HPにてお知らせいたします。

【三重公演】

日程：8月9日(土)14:00

8月10日(日)14:00

※受付開始は開演の45分前、開場は30分前

※未就学児入場不可 ※9日のみ託児サービス有(有料・要予約)

会場：三重県文化会館 小ホール

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234

チケット＜6月7日(土)10:00発売＞

料金(整理番号付き自由席)：一般 3,000円、22歳以下(入場時要証明) 1,500円

お取り扱い：三重県文化会館WEBチケットサービス「エムズネット」 <https://p-ticket.jp/center-mie/>

三重県文化会館チケットカウンター 059-233-1122(10時～17時/月曜または月祝翌平日休館)

ローソンチケット(Lコード：32989)

お問い合わせ：三重県文化会館 TEL：059-233-1122 WEB：<https://www.center-mie.or.jp/bunka/event/detail/48883>

【豊岡公演】豊岡演劇祭2025

日程：9月22日(月)～9月23日(火・祝)

会場：芸術文化観光専門職大学 静思堂シアター

〒668-0044 兵庫県豊岡市山王町7-52

チケット＜7月25日(金)12:00発売予定＞

お問い合わせ：豊岡演劇祭実行委員会事務局 TEL：0796-21-9016 WEB：<https://toyooka-theaterfestival.jp/>



クレジット

作・演出：岡田利規

出演：安藤真理、徐秋成、ティナ・ロズネル、ネス・ロケ、ロバート・ツェツシェ、米川幸リオン

舞台美術：佐々木文美 音響：中原楽(KARABINER inc.) サウンドデザイナー：佐藤公俊 照明：吉本有輝子 衣裳：藤谷香子

舞台監督：川上大二郎(スケラボ) 演出助手：山本ジャスティン伊等(Dr. Holiday Laboratory)

英語翻訳：オガワアヤ 宣伝美術：中村友理子 宣伝写真：前澤秀登

プロデューサー：水野恵美(precog)、黄木多美子(precog) プロジェクトマネージャー：遠藤七海

プロジェクトアシスタント：千田ひなた(precog)

製作：一般社団法人チェルフィッチュ 共同製作：KYOTO EXPERIMENT 企画制作：株式会社precog

＜熊本公演＞主催：公益財団法人熊本県立劇場 後援：熊本日日新聞社

＜三重公演＞主催：三重県文化会館 [指定管理者：(公財)三重県文化振興事業団]

＜豊岡公演＞主催：豊岡演劇祭実行委員会、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業))|独立行政法人日本芸術文化振興会(熊本・三重公演)

チェルフィッチュ precog



岡田利規 関連情報／今後の予定

チェルフィッチュ作品

◎『宇宙船イン・ビトゥーン号の窓』 ※5月12日(月)詳細情報公開

2025年8月2日(土)～3日(日) 熊本県立劇場 演劇ホール舞台上

2025年8月9日(土)～10日(日) 三重県文化会館 小ホール

2025年9月22日(月)～9月23日(火・祝) 豊岡演劇祭2025 (会場：芸術文化観光専門職大学 静思堂シアター)

<https://chelfitsch.net/activity/2025/03/inbetween.html>

◎『リビングルームのメタモルフォーシス』『消しゴム山』ソウル(韓国)公演(予定)

※後日 詳細情報公開

岡田利規 作・演出作品

◎『西田幾多郎の哲学テキスト「直接に與へられるもの」をみんなで朗読している映像演劇』

2025年6月21日(土)～6月29日(日)

※6月23日(月)は休場

金沢21世紀美術館 シアター21

https://www.kanazawa21.jp/data_list.php?g=25&d=2182

◎『ダンスの審査員のダンス』 ※6月頃から順次、詳細情報公開

2025年9月～2026年1月

- 2025年9月19日(金)～21日(日) 愛知公演(愛知県芸術劇場 小ホール)
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/detail/20250919.html>
- 2025年12月13日(土)・14日(日) 高知公演(高知県立美術館 ホール)
https://moak.jp/event/performing_arts/dance_no_shinsain_no_dance.html
- 2026年1月25日(日) 福岡公演(J:COM北九州芸術劇場 中劇場)
<https://q-geki.jp/news/2025/04/lineup2025-26.html>

ほか

◎KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『未練の幽霊と怪物―「珊瑚」「円山町」―』

2026年2月～3月

- 2026年2月14日(土)～3月1日(日)予定 神奈川公演(KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ)
<https://www.kaat.jp/d/miren2026>
- 2026年3月7日(土)・8日(日) 兵庫公演(兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール)
https://www1.gcenter-hyogo.jp/news/2025/03/0311_lineup2025.html
- 2026年3月15日(日) 新潟公演(りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 劇場)
- 2026年3月21日(土)・22日(日) 京都公演(ロームシアター京都 サウスホール)
<https://rohmtheatrekyoto.jp/event/134537/>